

2024
STUDENTS'
GUIDE

全学教育科目履修の手引

名古屋大学

2024年度全学教育に関する行事予定表(教養教育院)

学期	月 日 (曜日)	行 事	備 考
春学期	4月 2日 (火)	新入生履修ガイダンス	
	4月 2日 (火) ~ 4月 3日 (水)	履修登録Web入力期間 ※	
	4月 3日 (水)	英語プレテスト・テスト(TOEFL ITP試験)	
	4月 5日 (金)	入学式	
	4月 4日 (木) ~ 4月 9日 (火)	1年生定期健康診断	
	4月 9日 (火)	履修科目Web確認開始 (1回目確認) ※	
	4月 10日 (水)	春学期授業開始 ※	
	4月 10日 (水) ~ 4月 17日 (水)	履修登録修正Web入力期間 ※	◆曜日指定あり授業日
	4月 15日 (月) ~ 4月 30日 (火)	2年生定期健康診断 (Web予約)	4/30 (火) [月曜]
	4月 26日 (金)	履修科目Web確認開始 (2回目確認) ※	6/5 (水) [金曜]
	6月 6日 (木) ~ 6月 7日 (金)	名大祭による休講	7/15 (月・祝) [月曜]
	7月 3日 (水)	春1期修得科目Web確認	◆曜日指定なし授業予備日
	7月 24日 (水) ~ 8月 6日 (火)	試験・授業期間	5/25 (土)
	8月 6日 (火)	春学期授業終了	7/6 (土)
	8月 8日 (木) ~ 9月 30日 (月)	夏季休業	
	8月 21日 (水) ~ 8月 22日 (木)	追試験 (予定)	
8月 26日 (月)	春学期修得科目Web確認		
9月 2日 (月) ~ 9月 4日 (水)	再試験 (予定)		
秋学期	9月 12日 (木) ~ 9月 20日 (金)	履修登録Web入力期間 ※	
	9月 27日 (金)	秋季卒業式	
	9月 27日 (金)	履修科目Web確認開始 (1回目確認) ※	
	10月 1日 (火)	秋季入学式	
	10月 2日 (水)	秋学期授業開始 ※	
	10月 3日 (木) ~ 10月 11日 (金)	履修登録修正Web入力期間 ※	◆曜日指定あり授業日
	10月 23日 (水)	履修科目Web確認開始 (2回目確認) ※	10/14 (月・祝) [月曜]
	10月 28日 (月)	地震防災訓練	11/6 (水) [月曜]
	12月 14日 (土)	TOEFL ITP試験	1/9 (木) [月曜]
	12月 18日 (水)	秋1期修得科目Web確認	◆曜日指定なし授業予備日
	12月 28日 (土) ~ 1月 7日 (火)	冬季休業	11/9 (土)
	1月 17日 (金)	大学入学共通テスト準備のため休講	12/21 (土)
	1月 18日 (土)・1月 19日 (日)	大学入学共通テスト	
	1月 23日 (木) ~ 2月 5日 (水)	試験・授業期間	
	2月 5日 (水)	秋学期授業終了	
	2月 14日 (金)・2月 17日 (月)	追試験 (予定)	
	2月 18日 (火)	秋学期修得科目Web確認開始	
	3月 3日 (月) ~ 3月 5日 (水)	再試験 (予定)	
3月 25日 (火)	卒業式		

※「履修手続きに関する注意事項」参照

2024年度学年暦

※全学教育科目のみ該当する行事は赤い文字で表示してあります。

春学期

月	月	火	水	木	金	土	日	行事等
4	1	2	3	4	5	6	7	4/1~9 新入生ガイダンス等 4/3 英語プレイズメント・テスト 4/5 入学式 4/10~6/11 春1期授業期間 4/30 春1期月曜開講授業の授業日
	8	9	10①	11①	12①	13	14	
	15①	16①	17②	18②	19②	20	21	
	22②	23②	24③	25③	26③	27	28	
	29	30③						
5	6	7	8④	9④	10④	11	12	5/1 名古屋大学記念日 5/25 春1期授業予備日
	13④	14④	15⑤	16⑤	17⑤	18	19	
	20⑤	21⑤	22⑥	23⑥	24⑥	25	26	
	27⑥	28⑥	29⑦	30⑦	31⑦			
6	3⑦	4⑦	5⑧	6	7	8	9	(名大祭6/6午後~6/9) 6/5 春1期金曜開講授業の授業日 6/12~8/6 春2期授業期間
	10⑧	11⑧	12①	13①	14①	15	16	
	17①	18①	19②	20②	21②	22	23	
	24②	25②	26③	27③	28③	29	30	
7	1③	2③	3④	4④	5④	6	7	7/6 春2期授業予備日 7/15 春2期月曜開講授業の授業日 7/24~8/6 全学教育科目春学期 試験・授業期間
	8④	9④	10⑤	11⑤	12⑤	13	14	
	15⑤	16⑤	17⑥	18⑥	19⑥	20	21	
	22⑥	23⑥	24⑦	25⑦	26⑦	27	28	
8	5⑧	6⑧	7	8	9	10	11	8/7 休業日 8/8~9/30 夏季休業 8/8・9 オープンキャンパス 8/21・22 追試験(予定)
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
9	2	3	4	5	6	7	8	9/2~4 再試験(予定) 9/19~30 G30新入生ガイダンス等 9/27 秋季卒業式
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30							

秋学期

月	月	火	水	木	金	土	日	行事等
10	1	2①	3①	4①	5	6	7	10/1 秋季入学式 10/2~11/27 秋1期授業期間 10/14 秋1期月曜開講授業の授業日 10/28 地震防災訓練
	8	9②	10②	11②	12	13	14	
	15②	16③	17③	18③	19	20	21	
	22③	23④	24④	25④	26	27	28	
	29④	30⑤	31⑤					
11	4	5⑤	6⑤	7⑥	8⑥	9	10	11/6 秋1期月曜開講授業の授業日 11/9 秋1期授業予備日 11/28~2/5 秋2期授業期間
	11⑥	12⑥	13⑥	14⑦	15⑦	16	17	
	18⑦	19⑦	20⑦	21⑧	22⑧	23	24	
	25⑧	26⑧	27⑧	28①	29①	30		
12	2①	3①	4①	5②	6②	7	8	12/7 TOEFL ITP試験(学部3年次) 12/14 TOEFL ITP試験(学部1年次) 12/21 秋2期授業予備日 12/28~1/7 冬季休業
	9②	10②	11②	12③	13③	14	15	
	16③	17③	18③	19④	20④	21	22	
	23④	24④	25④	26⑤	27⑤	28	29	
	30	31						
1	6	7	8①	9⑤	10⑥	11	12	1/9 秋2期月曜開講授業の授業日 1/17 大学入学共通テスト準備のため休講 1/18・19 大学入学共通テスト 1/23~2/5 全学教育科目秋学期 試験・授業期間
	13	14⑤	15⑤	16⑥	17	18	19	
	20⑥	21⑥	22⑥	23⑦	24⑦	25	26	
	27⑦	28⑦	29⑦	30⑧	31⑧			
2	3⑧	4⑧	5⑧	6	7	8	9	2/14・17 追試験(予定)
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28			
3	3	4	5	6	7	8	9	3/3~5 再試験(予定) 3/25 卒業式
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

※表中の数字右側の丸囲い数字は、各期で授業回数8回が確保されていることを示しています。授業は各部署あるいは各教員の判断で、学生とも相談の上、授業の空き時間帯、5時限目等を利用して実施されることがあり、授業回数を付した日に授業が行われない場合があります。土曜日・日曜日・祝日が授業日又は授業予備日となる場合、事務室が閉室しているなど部署により事務対応が異なります。

※表中の数字四角囲いは、授業予備日を示しています。

※表中の数字丸囲いは、祝日又は振替休日を示しています。

【春学期】 4/29 昭和の日 5/3 憲法記念日 5/4 みどりの日 5/5 こどもの日 5/6 振替休日
7/15 海の日 8/11 山の日 8/12 振替休日 9/16 敬老の日 9/22 秋分の日 9/23 振替休日

【秋学期】 10/14 スポーツの日 11/3 文化の日 11/4 振替休日 11/23 勤労感謝の日 1/1 元日 1/13 成人の日
2/11 建国記念の日 2/23 天皇誕生日 2/24 振替休日 3/20 春分の日

目 次

I	はじめに	6
II	教育目標	7
III	全学教育科目の方針と内容	8
IV	本学の授業実施方法	10
	1. 学年と学期	10
	2. 期	10
	3. 休業日	10
	4. クラス編成	10
	5. 授業時間	11
	6. 授業科目と単位制度	11
	7. 履修登録単位数の上限設定	12
	8. 遠隔により実施する授業科目の取扱い	12
	9. 単位の認定	13
	10. 成績評価及び GPA 制度	13
	11. 履修取り下げ制度	15
	12. 成績評価に関する問合せ	16
V	授業時間割と履修計画	17
VI	履修手続と履修	20
	1. 履修手続	20
	2. 受講調整	20
	3. 履修	20
	4. 重複履修科目の単位	20
	5. 再履修・単位の補充	21
VII	試験と成績	22
	1. 試験	22
	2. 追試験	22
	3. 再試験	22
	4. 不正行為について	23
	5. 成績評価	23
	6. 既修得単位の認定	24
VIII	自然災害等に伴う授業及び学期末試験の取扱い	25
IX	学生への情報連絡の手段等	26
X	学部・学科別授業科目区分ごとの履修基準一覧（2024 年度入学生用）	29
	1. 文学部	30
	2. 教育学部	32
	3. 法学部	34

4.	経済学部	36
5.	情報学部：自然情報学科	38
6.	情報学部：人間・社会情報学科	40
7.	情報学部：コンピュータ科学科	42
8.	理学部：数理学科	44
9.	理学部：物理学科	46
10.	理学部：化学科	48
11.	理学部：生命理学科	50
12.	理学部：地球惑星科学科	52
13.	医学部：医学科	54
14.	医学部：保健学科	56
15.	工学部：化学生命工学科	58
16.	工学部：物理工学科	60
17.	工学部：マテリアル工学科	62
18.	工学部：電気電子情報工学科	64
19.	工学部：機械・航空宇宙工学科	66
20.	工学部：エネルギー理工学科	68
21.	工学部：環境土木・建築学科	70
22.	農学部	72
XI	各授業科目及び履修に関する注意事項	74
1.	「大学での学び」基礎論	74
2.	基礎セミナー	76
3.	言語文化科目	78
	(1) 外国語の履修について	78
	(2) 英語	81
	(3) 初修外国語	86
	(4) 検定試験による単位認定制度	91
	(5) 日本語	94
4.	健康・スポーツ科学科目	96
5.	データ科学科目	101
6.	国際理解科目	103
7.	現代教養科目	106
	(1) 人文・社会系	106
	(2) 自然系	107
	(3) 学際・融合系	108
8.	超学部セミナー	109
9.	人文・社会系基礎科目	110
10.	自然系基礎科目	111
11.	東海国立大学機構による取組み	112
XII	関係資料	113
1.	全学教育科目規程	113
2.	全学教育棟(本館・A館)講義室配置図	124
◎	教養教育院大地震対応マニュアル	126

名古屋大学は、21世紀の国際社会における本学の教育、研究、人材育成の基本理念を示すため、2000年2月に「名古屋大学学術憲章」を制定しました。

この「学術憲章」において、名古屋大学は研究面の拠点大学であると同時に、教養教育の重点大学となることを社会に宣言しました。そこでは、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てることを基本目標の一つとして掲げています。

「勇気ある知識人」とは何でしょう。よりよい未来社会を築き担っていこうとする姿勢と、それができるだけの素養・能力を備えたひとのことです。その素養・能力には当然のことながら、豊かな知識が含まれます。だから「知識人」でなければなりません。そして、その豊かな知識を現実に当てはめ、人々のより幸せな未来のために用いていこうとするコミットメントが必要です。しかし、それをしようとする、さまざまな軋轢が生じるでしょう。その軋轢を恐れることなく、学んだ知識・技能を役立てようとする勇気が必要です。哲学者のカントも、「己れの悟性を使用する勇気をもて」これが啓蒙の標語だ、と述べています。「勇気ある知識人」をわれわれの教育目標に掲げたのは、こうした思いに基づいています。

勇気ある知識人が身につけるべき素養・能力を授ける教育は、教養教育と呼ばれてきました。リベラル・アーツ教育とも呼ばれています。この「リベラル」は古代ギリシア民主政における、奴隷でない存在、つまりよき生を主体的に探求し公共的議論を通じて社会を動かしていく「自由人」に由来します。教養は自由人のための知でもあるのです。

名古屋大学では、この教養教育を全学の教員が学部の枠組みを超えて協力する形でつくりあげています。そのため、学部専門教育に対比して「全学教育」とも呼んでいます。そこで開講されている科目が「全学教育科目」、というわけです。

勇気ある知識人が身につけるべき素養・能力としての教養には、時代や地域を超えて変わらぬ部分と、それらに応じて柔軟に変化すべき部分の両面があります。その両面に対応し、よりよい教養教育を提供するため、2022年度から全学教育科目カリキュラムを大きく改善しました。

この「全学教育科目履修の手引 STUDENTS' GUIDE」は、本学の学生が全学教育科目を履修するにあたり、あらかじめ知っておかなければならない学修上の注意事項をまとめたものです。みなさんは本冊子をよく読むとともに、入学当初に開催する「学部ガイダンス」にも必ず出席して、間違いのないように、賢明に授業計画を立ててください。みなさんが授業計画を立てるにあたって不明な点や疑問に思う点があれば、所属学部の教務担当窓口又は教養教育院事務室に問い合わせてください。また、指導教員（クラス担任）もみなさんの様々な疑問に応じてくれますから、遠慮なく連絡をとるようにしてください。

履修する科目の選択から実際に授業に参加し成績評価を受けて単位を取得するまでには、みなさんはさまざまな情報を自ら進んで収集し自分で判断する必要があります。そのための情報はおもに3つのチャンネルによって提供します。全学教育科目全体にかかわることは「名古屋大学ポータル」の教養教育院ページ、それぞれの科目の目的や内容・履修条件などは名古屋大学ポータル「の教務システムから参照する「シラバス」、それぞれの科目で提供される授業資料や自習用課題・補足資料などは「TACT」を通じて情報提供されます（詳細は26ページ「IX 学生への情報連絡の手段等」参照）。みなさんは、できるだけ早くこれらのシステムの使い方に習熟し、つねに自立的、自発的に情報収集に努めてください。

みなさんが教養教育の意義を正しく理解して勉学に励んでくださることを人類の一員として期待しています。みなさんが、主体的、意欲的に学び、才能を豊かに花開かせるとともに、未来社会の担い手に育っていくことができますように。

II 教育目標

みなさんが暮らすことになる未来の世界は、これまでになく予測不可能なものになりそうです。地球環境問題、エネルギー問題、文化間・階層間の衝突といった難題はまだ解決されないまま、「先進国」では人工知能やロボットの導入により現在の仕事の半数近くがなくなると予想される一方で、100年も生きなくてはいけない。…いったいどんな社会になるのでしょうか。というより、どんな社会を目指していけば良いのかすら明確ではありません。しかも変化のスピードは増すばかり。みなさんが身につけた「最先端知識」はすぐに当たり前のことになってしまいます。このような時代をポジティブに生き、すべての人々にとってすこしでも幸せな社会を構想・実現しそれを担う知的能力と意欲を備えた人材を養成する教養教育の重要性は、ますます増大しています。

教養教育は単なる「専門教育を受けるための準備」ではありません。狭い領域を掘り下げる専門知識を学ぶ前に「広く浅くいろいろな知識を学んでおくこと」でもありません。いまある社会のいまある仕事をこなしていくための「社会人力の基礎を涵養すること」でもありません。教養教育は何か別のものための「準備」ではなく、それ自体完結した目標を持っています。すなわち、未来社会の設計者としての心的態度（マインドセット）を育てることです。これにそれぞれの専門的技能と知識が加わることによって、初めてみなさんは人類社会に貢献する「勇気ある知識人」に自己を形成することができるのです。

本学は、人類の未来から教養教育に付託された使命の実現に向けて、次の諸点に力点を置いて高度な教養教育を実現しようとしています。

(1) 四年一貫の系統的なカリキュラムの編成

全学教育、学部教育は、それぞれの教育理念と目的に従って、系統的な四年一貫教育（医学部医学科は六年一貫教育）を全学的協力のもとに実施する。

(2) 総合的な判断力の養成

個別的授業科目の羅列ではなく、学際的視野や相互関連的知識を与え、現代社会が直面する基本的な課題群に総合的に対処し得る能力を養成する。

(3) 学生の主体性と学ぶ意欲の尊重

学生が自ら選んだ専門分野に関連する科目を主体的に履修できるよう、科目の適正な学年配分を行うとともに、他学部が開講する科目や全学的に開講される科目を履修できる途を開く。

(4) 国際化への対応

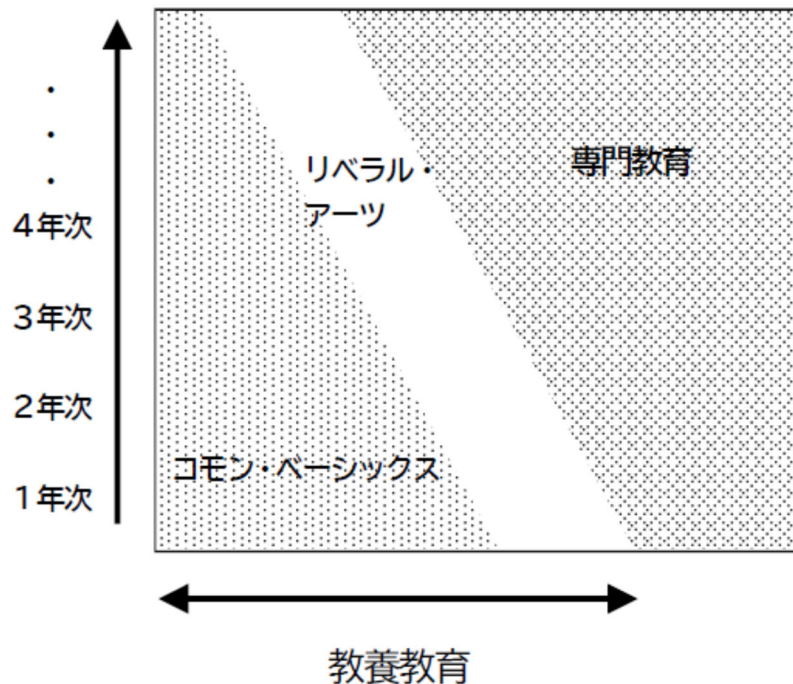
基礎教育としての外国語教育を強化するとともに、外国語を通じて異文化理解を深め、国境を越えて活躍できる人材を養成する。

教養教育院では、各学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、次の教育目標を掲げ、実現するための教育課程を編成しています。

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ①総合的な判断力と思考力を培う | 国際理解科目，現代教養科目など |
| ②学生の主体性と，学ぶ意欲を育む | 基礎セミナー，超学部セミナーなど |
| ③人間性を育むコミュニケーション能力を培う | 健康・スポーツ科学科目，言語文化科目など |
| ④学部間に共通の基礎的学力を培い，探究心を養う | 人文・社会系基礎科目，自然系基礎科目など |

Ⅲ 全学教育科目の方針と内容

前述の教育目標を達成するため、2022年度から、知識詰め込み型に陥ってしまいがちだった傾向を改め、学生の主体的学びを重視した質の高い「知」の獲得を目指す教育システムを構築するため全学教育科目を改善しました。ICT等を活用し知識伝達と能動的学習とのメリハリをつけることにより、アクティブラーニング主体の教育へ転換し、専門教育の深まりに応じて、初年次から大学院までシームレスに展開する共通基礎科目教育と教養教育を展開します。



多くの科目は2年次までに履修する科目として開講されていますが、改善した全学教育科目では、3年次以降の学生に対しても開講されています。

学部を超えた共同学習による専門分野の相対化を図る超学部セミナーをはじめとする教養科目は、大学院までシームレスに展開します。

専門教育の深まりに応じて活用できる言語文化科目として、特別英語セミナーや初修外国語上級などを開講しています。

学期を通して履修する科目数を削減し、自律した深い学びの機会がもてる時間割編成としています。

全学教育科目の科目区分とその内容

本学における授業科目の種類は、学部科目（専門系科目）と全学教育科目があります。ここでは、全学教育科目の詳細を説明します。

科目区分		内 容
共通基礎科目		「自立した主体的学び」へと学習姿勢を転換し、よりよい未来社会を構築しそれを担う「勇気ある知識人」となるために、すべての学生が専門分野によらず共通に身につけるべき基礎的素養（汎用力・課題発見／解決力）を育む
「大学での学び」基礎論		大学とは何か、大学で学ぶとはいかなることか、大学での学びを充実したものにするにはどのような知恵が必要かについて理解し、主体的な学習者としての態度の核を形成する
基礎セミナー		少人数のセミナー形式による多面的な知的トレーニングを通じて、真理探究の面白さに触れるとともに、主体的な学びに必須の「調べ、考え、書き、話す」能力を涵養する
言語文化 科目	英語	学問の世界の共通言語、かつ国際社会で活躍するために必須の言語である英語によるコミュニケーション能力を高め、世界に通ずる窓を開く
	初修外国語	英語以外の外国語の学修を通して、多様な異文化に対する理解と寛容性を身につけ、国境を越えてよりよい未来社会の構築をめざして協同するために必須の複数外国語運用能力の基礎を築く
	日本語	日本語の能力を高め、日本の文化と社会に対する理解を深めることにより、留学生活における主体的学びのための基礎能力を身につける
健康・ス ポーツ科 学科目	講義	健康に関する知識と自己管理能力及び運動・スポーツ習慣の必要性など、生涯スポーツの基礎となる知識を習得する
	実習	スポーツの実践を通して、運動・スポーツの楽しさを味わい、運動習慣獲得の基礎となる技能、コミュニケーション能力とリーダーシップ、チームワーク形成能力を身につける
データ科学科目		社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、その基礎的知識と汎用的な分析技能を獲得する
教養科目		教養ある「勇気ある知識人」として専門知を人類社会の問題解決に活用し幸福な未来を構築していく。そのために重要な資質である「異分野・異文化に開かれた態度」「分野を超えた幅広い知識への関心」及び「自己とその専門分野を相対化する視点」を獲得する
国際理解科目		「異文化との出会い」を契機に、世界には多様な価値観があることを認識し、近現代の国際関係に関する知識と事項の文化に関する知識を身につける。これを通じて、自らの主張を展開する力と文化的社会的な寛容性とを兼ね備えた、国際社会で活躍しうる人間に成長するための基礎を築く
現代教養科目		現代社会が抱える課題の理解を踏まえ、その課題に対する学際的・総合的分析能力を養うとともに、目指す専門分野と他分野との関連性を理解することによって、専門知の社会的役割を認識し、自らの専門分野を相対化する視点を身につける(注1)
超学部セミナー		自らの目指す専門性が自覚された学部3～4年次において、異なる分野を学ぶ学生が学部・学年を超えたチームを組み、自主的に設定した課題の解決のためにみんなで考え力を合わせる主体的経験を共有する。これを通じ、リーダーシップとチームワーク、異分野への開かれた態度、多様な人々の協調による課題解決能力を身につける
分野別基礎科目		専門分野の学習の基盤となる最も基礎的な知識と技能を身につける
人文・社会系基礎科目		人文・社会科学系の専門分野を学んでいく基盤として、それぞれの分野における学問体系を理解し、最も基礎的な知識と技能を身につける
自然系基礎科目		自然科学系の専門分野を学んでいく基盤として、それぞれの分野における学問体系を理解し、最も基礎的な知識と技能を身につける

注1 下位分類として人文・社会系、自然系、学際・融合系に分けたうえで、学部に応じて修得すべき系が指定されています。なお、後期教養教育として、専門をある程度学んだ3～4年次に履修する科目を配置しています。

IV 本学の授業実施方法

1. 学年と学期

学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。この1年間を年度といいます。

本学では、セメスター（2学期）に加え、クォーター（4期）で授業が実施できるよう学期を設定しています。

学年（年度）を春学期・秋学期の2つに分けた上で、さらに各学期の授業期間を2つに分け、前半を春1期・秋1期、後半を春2期・秋2期といいます。

セメスターの授業については15週分、クォーターの授業については8週分の授業が行われます。

- ・春学期（前期）4月1日から9月30日まで
- ・秋学期（後期）10月1日から3月31日まで

本年度の授業日程は、本冊子の表紙裏面（2-3ページ）に示したとおりです。

2. 期

在学期間は、原則として通常4年間（医学部医学科は6年間）なので、その間に8つの学期が含まれることになります。

入学年度の春学期から順次、通し番号をつけて次のように呼びます。

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	VII期	VIII期

期の順番を現す数字はローマ数字を使用します。

3. 休業日

授業を行わない日を休業日といいます。本学の休業日は、次のとおりです。ただし、休業日であっても、教育上必要がある場合には授業を行うことがあります。

<定期的なもの>

- ・1日限りのもの 日曜日、土曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ・長期のもの 夏季休業、冬季休業

4. クラス編成

本学に入学した学生は、学修上の便宜から入学当初に、入学年次・所属学部等を考慮して、次のようなクラスに編成されます。

このクラス編成は、履修ガイダンス時などに所属学部から通知されます。

◇クラス編成表

学 部	文：125				教育：65		法：150				経済：205					
学 科																
ク ラ ス	1	2	3	4	1	2	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6
学 生 数	32	31	31	31	33	32	38	38	37	37	35	34	34	34	34	34

学 部	情：135			理：270														
学 科	自然：38		人社：38	コン：59														
ク ラ ス	1	2		3			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学 生 数	38	38		59			23	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22

学 部	医：307							農：170						
学 科	医：107		保健：200					環境：35		資生：55		生命：80		
ク ラ ス	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
学 生 数	54	53	40	40	40	40	40	18	17	28	27	27	27	26

学 部	工：680																		
学 科	化生：99			物工：83			マテ：110			電情：118			機航：150			エネ：40		土建：80	
ク ラ ス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
学 生 数	33	33	33	42	41	37	37	36	30	30	29	29	38	38	37	37	40	40	40

[注意]

(1) 学部名及び学科名の後の数字は、学生定員を示している。

(2) 情報学部，医学部，工学部及び農学部は，学科ごとにクラスを編成する。

【情報学部学科略称】自然：自然情報学科 人社：人間・社会情報学科 コン：コンピュータ科学科

【工学部学科略称】化生：化学生命工学科 物工：物理工学科 マテ：マテリアル工学科

電情：電気電子情報工学科 機航：機械・航空宇宙工学科

エネ：エネルギー理工学科 土建：環境土木・建築学科

【農学部学科略称】環境：生物環境科学科 資生：資源生物科学科 生命：応用生命科学科

5. 授業時間

通常1科目当りの授業時間は、2時間(実時間90分)ですが、実験などの場合は4時間(実時間180分)となる時もあります。

各授業の始めと終わりは次のようになっており、その日の最初の授業から順次、第〇時限という言い方をしています。物理学実験，化学実験，生物学実験，地球科学実験などの4時間連続の授業は、2時限にわたる授業です。

8:45 ～ 10:15	休 み	10:30 ～ 12:00	休 み	13:00 ～ 14:30	休 み	14:45 ～ 16:15	休 み	16:30 ～ 18:00
第1時限		第2時限		第3時限		第4時限		第5時限

6. 授業科目と単位制度

授業科目は授業の形態により次の授業形式に分けられます。

また、大学では学生の学修を数量的に表示するために単位制度が採られています。

授業形式	内容	1週間1授業時間の場合、半期の単位数	科目区分等
講義	授業が、担当教員の講ずることを中心として進行する形態のものをいう。	2時間×8週 (実時間90分) 1.0単位	「大学での学び」基礎論， データ科学科目講義
		2時間×15週 (実時間90分) 2.0単位	健康・スポーツ科学講義， 国際理解科目， 現代教養科目， 人文・社会系基礎科目， 自然系基礎科目(実験を除く)

授業形式	内容	1週間1授業時間の場合、半期の単位数	科目区分等
演習	授業が、受講人員の制限のもとで、学生の主体的な学修を中心として進行する形態のものをいう。	2時間×8週 (実時間90分) 1.0単位	多言語修得基礎, データ科学科目演習
		2時間×15週 (実時間90分) 1.0, 2.0単位	基礎セミナー, 言語文化科目, 国際理解科目の一部, 超学部セミナー
実習	授業が、学生の実地又は実物について学修,あるいは、学生の実技や技能についての修得などを中心として進行する形態のものをいう。	2時間×15週 (実時間90分) 1.0単位	健康・スポーツ科学実習
実験	授業が、実験で行われる形態のものをいう。	4時間×15週 (実時間180分) 2.0単位	自然系基礎科目のうち 物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地球科学実験

※どの授業科目がどの単位数になるかは「XI 各授業科目及び履修に関する注意事項」で確認してください。

7. 履修登録単位数の上限設定

履修登録単位数の上限設定（キャップ制）は、学修する授業科目・単位数を精選することで十分な学修時間を確保して、内容を真に身につけられるようにし、各年次にわたって適切に授業科目を履修することを目的とし、各学部・学科において、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めています。

所定の単位を優れた成績をもって修得した学生は、履修登録単位数の上限値を緩和することができます。

履修登録単位数の上限設定、緩和条件などは、各学部において決定していますので、詳細は各学部の学生便覧等で確認してください。

なお、原則として、次の科目は履修登録上限単位数に算入しません。（学部・学科により取扱いが異なることがあります。）

- ・「教科に関する専門的事項」を除く教員免許状取得に関する科目
- ・集中講義科目
- ・単位互換他大学科目（海外、オンラインを含む）
- ・外国語検定試験認定科目
- ・入学前の既修得単位認定科目
- ・特別履修科目

8. 遠隔により実施する授業科目の取扱い

遠隔により実施する授業科目（以下、「遠隔授業」という。）については、学部における卒業要件単位数（124単位）に含めることができる単位数の上限は60単位と定められています。（名古屋大学通則第20条第3項）

そのため、全学教育科目及び学部専門系科目を合わせて、遠隔授業による単位取得が上限単位数以下となるように、計画的に履修をしてください。なお、履修しようとする授業の方法については、授業要覧（シラバス）で確認することができます。

※卒業要件が124単位（医学部医学科は188単位）を超える学部学科は、その超える単位数分を遠隔授

業の上限に加算することができるため、実際の上限単位数は所属する学部学科によって異なります。

9. 単位の認定

履修した授業科目については、平常の評価、レポート及び試験等を実施して総合的に評価し、各学期末に単位の認定をします。

なお、成績評価の方法及び基準については、授業要覧（シラバス）で確認してください。学期末試験等の内容、実施方法及び留意事項等については、授業担当教員から指示されるとともに、全学教育科目は全学教育棟の掲示板や[名古屋大学ポータル](#)で周知しますので、各自確認して受験してください。

また、各期末には成績・修得科目が修得科目確認表として通知されますので、必ず各自で Web ([名古屋大学ポータル](#)) の「修得科目確認（成績確認）」で確認してください。

10. 成績評価基準及び GPA 制度 ※詳細は、[2024 年度名古屋大学学生便覧](#)を参照してください。

(1) 成績評価及び評価基準等

成績評価は、授業科目によって 6 段階評価 (A+, A, B, C, C-, F) 又は 2 段階評価 (P, NP) のいずれかが用いられます。不合格の場合は単位を修得できません。

評価記号等に対応する評価基準等は次のとおりです。

	評価記号等	合否等	評価基準等
6 段階評価	A+	合格	際立って優れている。主題を全て理解し、広範な知識を持ち、概念や方法を巧みに使いこなして高度な課題を遂行できる。
	A		優れている。主題のほとんどを理解し、必要な知識を持ち、概念や方法を適切に使って課題を遂行できる。
	B		良好である。主題を十分理解し、問題・題材を扱うことができる。
	C		良好な面もあるが不足も目につく。主題の基本的な部分を理解し、比較的簡単な問題を扱うことができ、より高度な学修に進める状態になっている。
	C-		最低限の基準に達している。主題を最低限理解し、簡単な問題を扱うことはできるが、より高度な学修へと進むには更に努力が必要である。
	F	不合格	最低基準を満たしていない。
2 段階評価	P	合格	合格（合否等により成績評価を行う授業科目）
	NP	不合格	不合格（合否等により成績評価を行う授業科目）
その他	T	合格	認定（入学前や他大学等で修得した単位）
	W	---	学生から履修継続の意思がないことが申し立てられたため又は様々な合理的理由（課題が提出されない、試験を受験しない等）から学生に履修継続の意思がないと教員が判断したため、成績評価を行わないことを示す。

授業科目によっては、100 点満点による評価を行った上で 6 段階評価に換算する場合があります。その場合の標準的な方法は次のとおりです。ただし、この換算表によらない場合がありますので、個々の授業科目の授業要覧（シラバス）を確認してください。

評価記号	A+	A	B	C	C-	F
100 点満点評価	95 点以上	80 点以上 95 点未満	70 点以上 80 点未満	65 点以上 70 点未満	60 点以上 65 点未満	60 点 未満

(2) GPA 制度

本学では、学生の自律的な学修の促進及び成績評価の国際通用性を高めるための方策の一環として、グレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。）制度を導入しています。

① 評価記号と GP の対応

グレード・ポイント（各評価に与えられる数値。以下「GP」という。）は、次のとおり変換します。GP は学部学生のみ適用し、大学院学生には適用されません。したがって、GPA は学部学生のみ算出しています。

評価記号	A+	A	B	C	C-	F
GP	4.3	4.0	3.0	2.0	1.0	0

② GPA の種類及び算出方法

GPA は、当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としての GPA（学期 GPA）及び在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標としての GPA（累積 GPA）の 2 種類があり、計算式は次のとおりです。算出された数値に小数点以下第 2 位未満の端数があるときは、これを四捨五入します。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{当該学期における A+ の単位数} \times 4.3 + \text{A の単位数} \times 4.0 + \text{B の単位数} \times 3.0 + \text{C の単位数} \times 2.0 + \text{C- の単位数} \times 1.0}{\text{当該学期における A+ の単位数} + \text{A の単位数} + \text{B の単位数} + \text{C の単位数} + \text{C- の単位数} + \text{F の単位数}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{在学中の全期間における A+ の単位数} \times 4.3 + \text{A の単位数} \times 4.0 + \text{B の単位数} \times 3.0 + \text{C の単位数} \times 2.0 + \text{C- の単位数} \times 1.0}{\text{在学中の全期間における A+ の単位数} + \text{A の単位数} + \text{B の単位数} + \text{C の単位数} + \text{C- の単位数} + \text{F の単位数}}$$

③ GPA への算入・不算入

- ・卒業要件に関わる授業科目を算入します。
- ・随意科目及び教職科目等の卒業要件に関わらない授業科目は算入しません。
- ・P, NP, T 及び W をもって評価された授業科目は算入しません。
- ・再履修した授業科目の GPA の取扱い
 - F の評価を受けた授業科目を再度履修して A+, A, B, C 又は C- の評価を受けた場合には、F の評価は累積 GPA に算入しません。
 - F の評価を受けた授業科目を再度履修して F の評価を受けた場合には、F の評価は、累積 GPA に複数回算入しません。
 - F の評価を受けた後に、検定試験の成績による単位認定等により T の評価を受けた場合には、F の評価は累積 GPA に算入しません。
 - 単位を修得した授業科目を再度履修して A+, A, B, C, C- 又は F の評価を受けた場合には、再度履修した授業科目の評価は、GPA に算入しません。
 - 以上の場合において、重複して履修することが認められている授業科目は、この限りではありません。

④ GPA の表示

GPA は各学期末の修得科目確認表に、学期 GPA 及び累積 GPA が記載されます。
成績証明書には累積 GPA が記載されます。

11. 履修取り下げ制度

本学では、GPA 制度の導入に伴い、履修取り下げ制度を導入しています。GPA の算出にあたり、F は算入するため GPA の数値を低下させ、W は算入せず GPA の数値に影響を与えないことから、評価が F であるか W であるかは大きな違いとなります。

このため、履修登録をしたが履修・単位修得の意思がなくなった授業科目については、指定期日までに、授業担当教員の指定した方法により履修の意思がない旨を意思表示すること（履修取り下げ）により、当該科目は W となります。履修取り下げの申し出期日は、春学期は 5 月末、秋学期は 11 月末としていますが、授業の事情により異なる場合がありますので、必ず授業担当教員に確認してください。

授業要覧（シラバス）はこの制度の運用を前提にして作成されています。履修人数など授業のさまざまな条件により、いくつかの記載の可能性がありますので、履修取り下げの意思が生じた場合、以下に従ってその意思を明確に授業担当教員に伝えてください。不明の点は、必ず授業担当教員に確認してください。

- (1) シラバスに「学期途中で履修の意思がなくなった場合、履修取り下げを申し出る必要がある」と記載されている場合

履修取り下げは、履修科目の TACT 講義サイトを通じて授業担当教員へ申し出てください。申し出の期限は、授業担当教員に確認してください。

あらかじめ授業担当教員が定めた期限までに「履修取り下げ」の申し出がない場合は、学期末試験の欠席、レポートの未提出、講義・演習・実験などへの出席日数の不足の場合でも、学期末試験（レポートを含む）の不合格の場合と同じく、成績判定は「F」となります。原則として、「履修取り下げ」の申し出をしなかった学生に対して「W」の成績判定は行いません。ただし、病気、事故、不登校などの事由で「履修取り下げ」の申し出がない（できない）等の事情のある場合の成績評価については、授業担当教員の判断で「W」とすることがあります。

「履修取り下げ」の申し出がされた場合は、成績評価は「W」となります。

- (2) シラバスに「履修取り下げにあたり、履修取り下げの申し出を必要としない」と記載されている場合

履修者がきわめて多数であるため、「履修取り下げ」の申し出の授受、管理などに困難がある等の場合、「履修取り下げ」の申し出を条件とせず、学期末試験の欠席、レポートの未提出などの場合の成績判定を、「F」ではなく「W」とするものです。この場合、シラバスの「成績評価の方法」において、中間テスト、レポート、授業への貢献の扱い等、どのような場合に「W」評価となるかについて、記載されているはずですが、または、講義のイントロダクション等において、「学期末試験を受験しなかった場合の評価は『W』とする」、「レポートの未提出や出席日数が不足する場合、学期末試験を受験しても『F』となる可能性がある」等「成績評価の方法」、つまり「W」と「F」の基準についての具体的な指導がなされることになっています。

そのような記載や指導がなく、履修を取り下げたい場合、成績評価の方法について授業担当教員に確認の上、指示に従ってください。

- (3) シラバスに「学期途中で履修の取りやめを希望する場合は、担当教員の許可を必要とする」等と記載されている場合

セミナー等で個々の学生に役割分担が与えられる場合など、履修の安易な取り下げが授業全体の実施に支障をきたす場合も考えられます。この場合、「履修を取りやめる場合は、担当教員の許可を必要とします」等の記載がシラバスになされているはずですが、このとき、事情によりどうしても履修の取りやめを希望する場合は、授業担当教員に相談し、その指示に従ってください。

その結果、履修取り下げが認められた場合、成績評価は「W」となります。なお、病気、事故、不登校などの事由で、「履修取り下げ」の申し出がない(できない)等の事情がある場合の成績評価については、授業担当教員の判断で「W」とすることがあります。

12. 成績評価に関する問合せ

全学教育科目の成績評価に関して疑義が生じた場合は、書面により問い合わせてください。成績が発表された日から原則3日以内(成績発表日を含む)に、教養教育院事務室へ [TACT](#) から「成績評価照会票」を提出してください。詳しい手順方法は、[名古屋大学ポータル](#)に掲載します。

なお、成績評価が記載されていない科目については、直接教養教育院事務室へお問い合わせください。専門系科目については、各学部教務学生係等の指示に従ってください。

1. 履修計画の立て方

学生は、所属する学部卒業要件を満たす単位を修得しなければなりません。また、進級要件が定められている学部においては、所定の年限までにそれを満たす単位を修得しなければなりません。従って、それらの要件を満たすように、全学教育科目や各学部が開講する学部科目の履修計画を立てる必要があります。それにとどまらず、各自の修学の目的や学問的な関心に応じて十分と思われる勉学を行うことができるように、主体的な判断に基づいて、履修計画を立てるよう心掛けることが重要です。

[履修計画の検討の手順]

- (1) 本冊子の「X 学部・学科別授業科目区分ごとの履修基準一覧（2024年度入学生用）」（29ページ）及び各学部の学生便覧で履修要件を確認
- (2) 本冊子の「XI 各授業科目及び履修に関する注意事項」（74ページ）で、各科目を確認
- (3) 『全学教育科目授業時間割表 COURSE TIMETABLE』の「授業時間割A表」で、所属学部向けに開講されている曜日・時限ごとの大まかな科目区分を把握
- (4) 「授業時間割B表」で各授業科目の科目名、担当教員及び講義室等を確認
- (5) 「全学教育科目授業要覧（SYLLABUS）」でそれぞれの科目の授業内容等を確認し、履修したい科目を確認

[注意事項]

- ・各学部の卒業要件を満たす単位を在学中に無理なく履修できる機会をすべての学生に保証するため、あるいは各授業科目の目的や内容によっては段階的な履修が必要になるため、全学教育科目の時間割表は受講できる学部・クラスを指定することを前提として作成されています。このため、履修計画を立てる際は、「学部又はクラス指定の授業科目」を選択してください。
- ・下位年次生が上位年次生の授業科目を履修することは原則としてできません。
- ・同一科目を2回以上履修し、試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1科目しか認められません。ただし、言語文化科目については複数科目が卒業要件単位として認められる場合があります。

2. 全学教育科目の授業時間割表（COURSE TIMETABLE）について

(1) 授業時間割表（A表）

2024年度の全学教育科目及び各学部の学部科目の開講時間帯を概略的に表示したものです。

(2) 授業時間割表（B表）

- ・2024年度に開講する具体的な授業時間割（授業科目、担当教員、学部・クラス指定、講義室など）を、期・曜日・時限ごとに表示したものです。
- ・授業時間割表（B表）のすべての授業科目には「時間割コード」が付してありますが、このコードは履修手続きを行う際に必要となります。
- ・各曜日・時限に開講される授業科目は毎年度新たに生まれ、それに伴い、時間割コードも毎年変わります。
- ・学部指定オビ以外（注）に開講される言語文化科目は、対象学部が「全学部」として表示されています。

（注）「オビ」：時間帯（一つの曜日・時限）

「学部指定オビ」：所属する学部、学科の指定がされている時間帯

「学部指定オビ以外」とは、学部、学科の指定がされていない時間帯

【授業時間割表 (COURSE TIMETABLE) 参照方法】

※詳細は 26 ページ 「IX 学生への情報連絡の手段等」を参照してください。

- ① [名古屋大学ポータル](#)にログイン
- ② 「教養教育院」をクリック→教養教育院からのお知らせ、学生メニュー等に記載
機構アカウント配付前は、[教養教育院ホームページ](#)の「お知らせ」から確認してください。

3. 全学教育科目授業要覧 (SYLLABUS) について

全学教育科目授業要覧 (SYLLABUS) では、授業科目ごとに、担当教員名、授業の目的、達成目標、履修上の条件、授業内容、成績評価の方法、教科書、参考書などを表示しています。履修計画の作成に活用してください。

【全学教育科目授業要覧 (SYLLABUS) 参照方法】

※詳細は 26 ページ 「IX 学生への情報連絡の手段等」を参照してください。

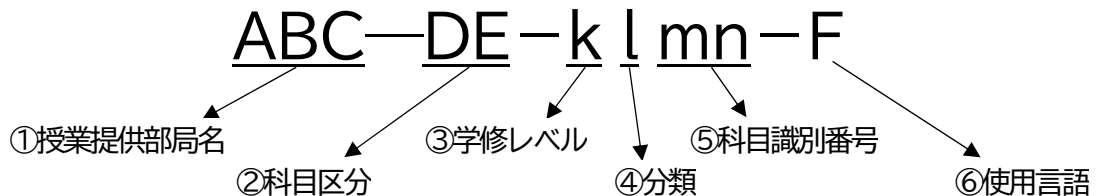
- ① [名古屋大学ポータル](#)にログイン
- ② 「学務」→「履修・成績」→「シラバス」をクリック
機構アカウント配付前は、[教養教育院ホームページ](#)から確認してください。ただし、教養教育院ホームページのシラバスは簡易版で、授業の内容の詳細、成績評価基準、授業担当教員の連絡先などが掲載されていないことに留意してください。

4. コースナンバリング

名古屋大学全学教育科目のコースナンバリング・コードについて

カリキュラムの体系性を明示し、国際通用性を高めるため、全学教育科目の各授業科目を以下のように10桁の英数字で表しています。

学生のみなさんは、全学教育科目を体系的に履修するために役立ててください。



①授業提供部局

教養教育院が提供する全学教育科目： LAS

②科目区分

FS	基礎セミナー・大学での学び 基礎論
LC	言語文化科目
HS	健康・スポーツ科学科目
DS	データ科学科目
GL	国際理解科目
CL	現代教養科目
PB	超学部セミナー
BH	人文・社会系基礎科目
BN	自然系基礎科目

③学修レベル

0	全学教育科目基礎的レベル
1	全学教育科目発展的レベル

④分類

言語文化科目	1	英語
	2	ドイツ語
	3	フランス語
	4	ロシア語
	5	中国語
	6	スペイン語
	7	朝鮮・韓国語
	8	日本語
	9	上記以外
現代教養科目	1	人文・社会系
	2	自然系
	3	学際・融合系

※上記以外の科目区分の分類は9

⑤科目を識別するための番号

※岐阜大学との連携開設科目については、99から逆順に付番する。

⑥使用言語

J	日本語
E	英語
B	日英2言語併用
O	その他の言語

授業科目を履修する場合には、次のような手続きをする必要があります。

1. 履修手続

- (1) 各学期の初めまでに、その学期に履修しようとする授業科目（全学教育科目及び各学部が開講する学部科目）を選び、手続きを行ってください。
- (2) この履修手続きを行わなかった学生は、受講することも、その試験を受ける資格も与えられませんので注意してください。
- (3) なお、履修しようとする授業科目によって登録方法、期限や担当教員への受講手続き方法が異なりますので注意してください。
- (4) 履修手続きはWeb登録をして完了するのではなく、その都度、履修登録が正しくされているか、誤りがないかを確認することで履修手続き完了となります。2回目の履修科目の確認は、その学期に受講するすべての科目が掲載されていますので、履修登録に誤りがあった場合は、至急担当係（全学教育科目は教養教育院事務室、学部科目は所属学部の教務学生係等）へ相談してください。
- (5) 履修登録はWeb（[名古屋大学ポータル](#)）で行います。詳細については、[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」で確認してください。

2. 受講調整

授業科目の目的や内容を効果のあるものにするため、また、講義室や実験室の収容スペース等を考慮し、適切な受講者数を決定するため、受講調整を行っています。

受講調整の方法は、[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」で確認してください。

※受講希望に基づいて受講調整を行い、受講科目を決定しますので、受講する意志のない科目をWeb（名古屋大学ポータル）に登録することのないように注意してください。闇雲に受講希望を入力することは、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）によりエラーになる可能性があります。また、履修登録をする他の学生の迷惑となりますので、十分注意してください。

3. 履修

- (1) 授業には毎回出席することが原則です。
欠席回数が多い場合は、学期の途中でも受講の許可が取り消されることがあります。また、試験を受ける資格が与えられないことがあります。
- (2) 教室外における自学自習の状態を評価する方法は、担当教員によって異なります。
たとえ授業には常に出席していても、教室外の自学自習に欠けることがあれば、(1)と同様の処置がとられることもあります。

4. 重複履修科目の単位

- (1) 原則として、同一科目を2科目以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1科目しか認められません。
- (2) 言語文化科目については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められるものがあります。ただし、履修上の制限がありますので、各言語の〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
- (3) 自然系基礎科目において、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講して

ください。

5. 再履修・単位の補充

試験等の結果、「F」又は「W」となった授業科目は、各学部が定める進級基準又は卒業に必要な単位を修得するため、当該科目を再履修し、不足する単位を補充する必要があります。

不足する単位は、下位年次生対象の授業を履修するか、又は他学部・他クラスの授業を履修することで単位を補充することができる場合もありますので、必ず所属学部の教務学生係等に確認してください。ただし、再履修する場合は、他に履修しなければならない授業科目と曜日時限が重複することが多く、困難が伴うことを覚悟しなければなりません。

詳細の方法は、[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」で確認してください。

1. 試験

全学教育科目の試験に関する一般的な注意事項は、次のとおりです。

- (1) 原則として、各学期末に学期末試験を行います。
- (2) 試験は、筆記試験を原則としますが、筆記試験の代わりに、レポート提出、口述試験、実験報告などによることもあります。
- (3) 試験を受ける際は、机上に学生証を提示しなければなりません。
- (4) 試験の際、20分以上遅刻すると、試験室に入ることが許可されません。

受験している試験室からの退出が許可されるのは、試験開始後30分以上経過してからです。ただし、試験終了前の5分間は、退出が許可されません。

なお、退出した場合は、他の受験者の迷惑にならないよう静粛にしてください。

- (5) 試験時間は、すべて標準電気時計又はそれに合わせた監督者の時計によります。
- (6) 試験の際、不正行為を行ってははいけません。

万一、不正行為のあったときは、教養教育院の議を経て、所属する学部長に通知するものとし、各学部の教授会は、「名古屋大学学生の懲戒等に関する規程」により、何らかの措置（当該学生の当該学期に認定される全授業科目の単位をすべて無効とする等）を決定します。

2. 追試験

追試験とは、傷病、その他やむを得ない理由によって、学期末試験の一部ないし全部を受験できなかった者に対して行われる試験のことを言います。追試験に合格した場合には、その期の成績として認定されます。

- (1) 追試験を希望する者は、教養教育院長に願い出て、その許可を得なければなりません。

このため、追試験受験願に、追試験を希望するすべての授業科目について、所定の事項を記入し、

- ① 傷病の場合は、医師の診断書 1通
- ② その他の場合は、理由書とそれを証明できる書類 1通

追試験受験願と①又は②は、教養教育院事務室にそれぞれ提出してください。

- (2) 追試験受験願に不備がなく、審査の結果、その理由が正当と認められた場合に限り受験が許可されます。
- (3) 追試験受験願の提出期限及び追試験の期日・時間・試験室は、[名古屋大学ポータル](#)の「教養教育院」ページで発表します。
- (4) 追試験を受験できなかった場合の追々試験は実施しません。

3. 再試験

再試験とは、次の別表1及び別表2に掲げる科目を受講し、その期の学期末試験又は追試験を受け、その成績が「F又はNP」となった者のうち、一定の要件を満たした者に対し、再度行われる試験のことを言います。再試験に合格した場合には、その期の成績として認定されます。

再試験の実施時期は、9月又は3月です。科目によって実施時期が異なりますので、注意してください。

再試験は、成績が合格に達しなかった者に対し再度受験の機会を与えることにより、学生の履修上の便宜を図るものです。受講の実態の無い者や試験を欠席した者は、受験資格はありません。

- (1) 再試験を受験できる者は、再試験実施科目の成績が「F又はNP」となった者で、教養教育院が定める要件を満たす場合とし、対象者は[名古屋大学ポータル](#)の「教養教育院」ページで発表します。
- (2) 再試験の期日・時間・試験室は、[名古屋大学ポータル](#)の「教養教育院」ページで発表します。
- (3) 再試験の時間は、50分又は90分です。（科目によっては授業担当教員が決定します。）
- (4) 再試験の成績評価は「C-」又は「F」、もしくは「P」又は「NP」で、「C-」又は「P」は再試験を実施した期の単位として認定されます。
- (5) 再試験を受験できなかった場合の追試験は、実施しません。

(6) 再々試験は、実施しません。

(国際プログラム群を除く。)

別表1 (学期末試験が行われた期に再試験を実施する科目【当該期再試験該当科目】)

自然系基礎科目	物理学系	力学Ⅰ, 力学Ⅱ, 電磁気学Ⅰ, 電磁気学Ⅱ, 物理学基礎Ⅰ, 物理学基礎Ⅱ
	化学系	化学基礎Ⅰ, 化学基礎Ⅱ
	生物学系	生物学基礎Ⅰ, 生物学基礎Ⅱ
	地球科学系	地球科学基礎Ⅰ, 地球科学基礎Ⅱ

別表2 (学期末試験が行われた期の次期に再試験を実施する科目【次期再試験該当科目】)

言語文化科目	英語 (サバイバル) 注
--------	--------------

注 英語 (サバイバル) は、再試験に代えて合格認定試験を行うものとする。

4. 不正行為について

授業・試験等における不正行為は断じて許されることではありません。授業の際の小テスト、レポート及び学期末試験等における不正行為を絶対行わないでください。万一、不正行為があった場合は、事実関係を調査したうえで、「名古屋大学学生の懲戒等に関する規程」に基づき、措置され、退学・停学・訓告処分が科せられることがあります。また、当該科目に止まらず、当該学期において修得した全授業科目の単位が不認定となり、事実上留年になります。

不正行為は学期末試験、レポート提出期限、成果発表などの日が迫っているのに準備が追いついていない場合に起こしやすいとされています。良い成績を取りたい、単位を落としたいといった気持ちが先走り、いわゆるコピペやカンニングに走ったり、不完全な引用・参照が行われたりするのです。不正行為は、学生としての本分に反する行為であり、不正行為によって多大な不利益を被るのは自分自身であることをよく認識し、次のことを心掛けたうえで授業や試験に臨んでください。

- ・試験時は答案作成に許可されたもの以外は、机上・机中や椅子上に置かず、かばんの中に入れ、かばんは口を閉めて足下等に置くこと。
- ・ウェアラブル端末、下敷きは使用しないこと。
- ・携帯電話・スマートフォンは電源を切り、かばんの中に入れること。
- ・レポート等の作成に際して、インターネット等からのコピー&ペーストや他人の著作物の盗用を行わないこと。
- ・調査・実験等において各種データの捏造・改ざんを行わないこと。

盗用：他人の研究内容又は文章を適切な手続きを経ることなしに流用すること

捏造：データ又は実験結果を偽造すること

改ざん：研究試料・機材・研究過程に操作を加え、又はデータ若しくは研究成果を変え、若しくは省略することにより研究内容を正しく表現しないこと

引用：「良識をもって学問をしよう！」高等教育研究センター
(<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/support/file/integrity.pdf>)

5. 成績評価

(1) 全学教育科目の単位の認定は、学期末試験、追試験及び再試験のほか、授業の履修状況などを踏まえ、総合的に成績を評価し、合格した者には、所定の単位が与えられます。

(2) 成績評価は、「A+」、「A」、「B」、「C」、「C-」、「F」の6段階で表記されます。なお、「A+」、「A」、「B」、「C」及び「C-」は合格で、所定の単位が与えられます。

これを「単位の修得」といいます。「F」は不合格で、単位は与えられません。

ただし、この区分による成績認定が不可能な科目に関しては、P・NPの2区分となります。

(3) 成績評価が「F」であった者のうち、教養教育院統括部における部会又は小部会が科目ごとに定める要件を満たす者は、再試験の対象となります。

(4) 毎学期の成績は、春学期分は8月下旬（春1期は7月上旬）、秋学期分は2月中旬（秋1期は12月中旬）に、Web（[名古屋大学ポータル](#)）の「修得科目確認（成績確認）」で確認してください。

(5) 「修得科目確認（成績確認）」には、学期ごとに授業科目名・担当教員名・成績・単位数が掲載されます。一度修得した授業科目の成績・単位は、これを取り消したり、以後の修得によって変更したりすることはできません。

(6) 「修得科目確認（成績確認）」により、全学教育科目の成績評価について疑義がある場合は、成績が発表された日から原則3日以内（成績発表日を含む）に、教養教育院事務室へ「成績評価照会票」を提出してください。手続方法は、[名古屋大学ポータル](#)に掲載しますので、[TACT](#) から「成績評価照会票」を提出してください。

6. 既修得単位の認定

他の大学を卒業又は退学し、新たに本学の1年次に入学した場合は、入学前に修得した科目及び単位について、本学で修得した単位として認定することがあります。

この認定は、個々の学生ごとに行われ、認定にかかる科目区分ごとの授業科目及び単位数は、各学部により異なりますのでそれぞれの所属学部の学生便覧を参照してください。

既修得単位の認定の申し出は、入学手続後、所属学部の指示に従い、所定の手続きをしてください。

なお、この申し出に際しては、次の書類が必要となりますので、あらかじめ手元に取り寄せ、速やかに提出できるよう用意しておいてください。

〔提出を要する書類〕

- ① 入学前に単位を修得した大学の成績証明書及び卒業又は退学証明書
- ② 卒業又は退学した大学の「授業要覧」等

〔提出先〕

所属学部の教務学生係（文系学部は文系教務課各学部グループ、工学部は教務課教務係、医学部医学科は学務課学務係）

Ⅷ 自然災害等に伴う授業及び学期末試験の取扱い

台風等又は地震による災害が発生した場合、もしくは発生のおそれがあり警報等の情報が発表された場合の全学教育科目の授業及び学期末試験（追試験及び再試験を含む。以降「授業等」という。）の対応は次のとおりです。

1. 名古屋市内に台風等を伴う暴風警報、あるいは各種特別警報が発表された場合

台風等に伴い名古屋市に暴風警報、あるいは各種特別警報が発表された場合は、これらの警報発表後に開始される授業等は休講となります。ただし、これらの警報が解除された場合の授業等の実施については、別表のとおりです。

別表〔暴風警報・各種特別警報解除後の授業の実施〕

警報解除時刻	授業等開始時限
6：45 まで	第1限
以後 11：00 まで	第3限

〔注意事項等〕

- (1) 暴風警報が発表された際、既に大学に登校している場合は、経路の安全を確認し、危険な状況になる前に帰宅してください。
- (2) 登校途中に暴風警報が発表された場合は、登校せず、帰宅してください。
- (3) ICTによる遠隔授業等は原則として休講になりません。この場合は講義のホームページや [TACT](#) 等で開講状況を確認してください。
- (4) また、随時更新される以下の気象庁ウェブサイトを確認してください。
https://www.jma.go.jp/jp/warn/329_table.html

2. 地震・火災が発生した場合

授業等の最中に地震等が発生した時は、地震等の規模や周りの状況を冷静に判断し、まず身の安全を図ってください。

その後、授業等を速やかに中断し、授業担当教員の指示に従って、指定された一次避難場所へ避難してください。避難後は、大学（教養教育院）の指示に従ってください。

3. 南海トラフ地震臨時情報が発表された場合

2019年5月31日から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることになりました。この情報が発表された場合の対応は、国や地方自治体でも検討中ですが、授業の実施や帰宅などについては大学の指示に従って行動し、あわせて各自で情報収集に努めて安全を確保してください。なお、対応方針については今後追加・変更される可能性がありますので、注意してください。

4. その他、災害が発生した場合、もしくは発生のおそれがある場合

上記以外の場合において、授業等を実施することが困難であると判断されるときは、教養教育院において休講措置等の情報を [名古屋大学ポータル](#) 等により通知します。

5. 代替措置

上記により中止となった場合の授業等の代替措置実施期日は、 [名古屋大学ポータル](#) 等により通知します。

IX 学生への情報連絡の手段等

学生のみなさんへの各種通知・連絡・案内などの連絡手段は次のとおりです。見落としのないよう確認する習慣を身につけてください。

【情報環境のセットアップ】

名古屋大学が提供する情報サービスを利用するために、新入生のみなさんが実施しなくてはならない情報環境のセットアップやオンライン研修があります。

以下の情報連携推進本部のサイトに、実施する必要があるセットアップやオンライン研修がまとめられていますので、参照して、実施してください。

https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/services/setup_info_for_new_members.html



1. 名古屋大学ポータル

履修登録・確認、成績確認、シラバス閲覧などを行うことができ、さらに教養教育院から各種お知らせをします。

- (1) 教務システムの履修登録、履修確認、成績確認
- (2) シラバス閲覧
- (3) 教養教育院からの各種通知（全学教育科目の履修関係、学期末試験、追試験、再試験、検定試験による単位認定、その他重要なお知らせ等）

名古屋大学ポータルをはじめとする学内の各種情報サービスの利用には、機構アカウント又は名古屋大学IDとパスワードが必要です。

【名古屋大学ポータル】

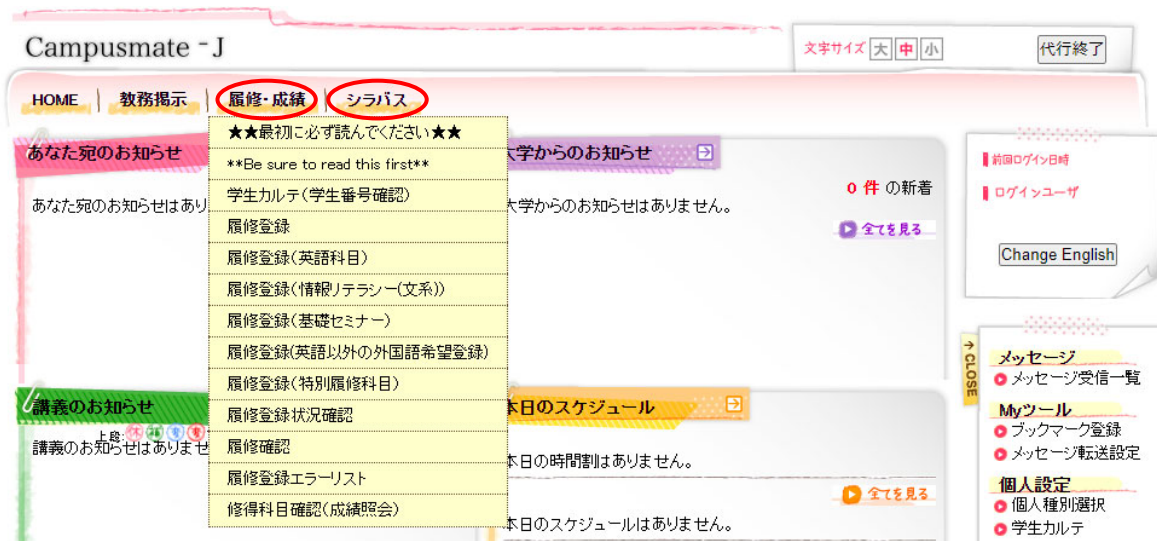
- ① [名古屋大学ホームページ](#)の下部にある「名大ポータル」をクリック



- ② トップ画面から名古屋大学ポータルにログイン
 (多要素認証が必要。詳細は情報連携推進本部 HP を参照。)
<https://thersac.icts.thers.ac.jp/hc/ja/p/setup>



- ③ 「教養教育院」をクリックして、教養教育院からのお知らせ、学生メニュー等を確認する。
 「学務」→「履修・成績」をクリックして、履修登録、履修確認、成績確認、シラバス閲覧をする。



2. TACT

個別の授業の案内は教育学習支援システム TACT*を中心に行います。

*教育学習支援システム TACT (TOKAI Academic Combination Tools) は、インターネット上で授業運営(授業の連絡, 教材の閲覧, 課題の指示, レポート提出など)を行うシステムです。

<https://tact.ac.thers.ac.jp/>

3. 掲示板

全学教育棟本館1階服部ホール(学生ホール)の掲示板では、次の情報をお知らせします。

- (1) 全学教育科目の履修に関すること
- (2) 全学教育科目の緊急の休講・補講連絡
- (3) 全学教育科目の講義室の変更
- (4) 全学教育科目のレポート・試験に関すること
- (5) 授業料免除・奨学金に関すること
- (6) その他全学教育科目・授業, 教養教育院からの重要なお知らせ

4. 休講・補講の連絡

休講・補講の連絡について、原則、各授業担当教員から、TACT 講義サイトを通じてお知らせします。

5. 名古屋大学教養教育院公式 X (旧 Twitter)

この公式 X (旧 Twitter) は教養教育院から情報発信を行うことを目的としています。質問に対しての返信等はいませんので、質問などがある場合は、教養教育院事務室の窓口まで直接申し出てください。

アカウント名: @NagoyaUniv_ilas https://twitter.com/NagoyaUniv_ilas



教養教育院の公式 X (旧 Twitter) では、次の情報をお知らせしています。

- (1) 全学教育科目に関する情報
- (2) 自然災害に伴う授業及び学期末試験の取扱いに関する情報
- (3) 主に学部1, 2年生が対象となる説明会などの案内情報
- (4) 緊急時における情報

X 学部・学科別授業科目区分ごとの履修基準一覧（2024年度入学生用）

◎各学部の履修基準は、入学年度及び学科や専攻等により異なりますので、必ず所属学部の「学生便覧」で確認してください。

1. 文学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学 教育 科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	10	次のうち一つの言語で10単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。
		初修外国語	10	
		日本語		
	健康・スポーツ 科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	0	随意科目としてデータ科学基礎演習Aを履修することができる。
	国際理解科目		4	「現代教養科目（自然系）」又は「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
現代教養科目（自然系）又は（学際・融合系）	2			
超学部セミナー				
人文・社会系基礎科目		8		
小計		40		
学部 科目	専門科目		「専門基礎科目」2単位を含む、合計84単位以上を修得すること。	
	関連専門科目			
	専門基礎科目	2		
	小計	84		
合計		124		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分	必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	「大学での学び」基礎論	1	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は、通算6年までとする。 （在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)） ③ 言語文化科目2単位の不足者に限り、仮進級を認める。 ④ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。
	基礎セミナー	2	
	言語文化科目	20	
	健康・スポーツ科学科目	4	
	データ科学科目	1	
	国際理解科目		
	現代教養科目	2	
	超学部セミナー		
	人文・社会系基礎科目	6	
	専門基礎科目	2	
計	38		

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 言語文化科目については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので、78 ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目 10 単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
英語（サバイバル）	1 単位	I 期	随意科目	プレースメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2 単位	I 期	必修科目	
英語（中級）	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
英語（上級）	2 単位	Ⅲ期	必修科目	
英語（上級リーディング）1	1 単位	Ⅲ期	必修科目	どちらかを複数履修することによっても卒業要件単位となります。
英語（上級リーディング）2	1 単位	Ⅳ期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2 単位	春学期 3 年次 以上	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A 類）	2 単位			
特別英語セミナー（B 類）	2 単位			
特別英語セミナー（C 類）	2 単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：1言語について、必修科目 10 単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
【初修外国語】基礎1	2 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
【初修外国語】中級1	2 単位	Ⅲ期	必修科目	どちらかを複数履修することによっても卒業要件単位となります。
【初修外国語】中級2	2 単位	Ⅳ期	必修科目	
【初修外国語】中級	2 単位	—	—	中級1、中級2として読み替えることができます。
【初修外国語】上級	2 単位	—		

【初修外国語】基礎1及び基礎2の単位を修得した段階で、異なる【初修外国語】の言語に変更を希望する場合は、変更前と変更後の言語担当教員に相談してください。履修言語の変更が認められた場合は、変更後の言語の【初修外国語】基礎1、基礎2、初級完成を履修することにより、言語の変更前と変更後に履修した科目全体をもって、初修外国語の卒業要件及び進級要件をすべて満たしたものと認められます。

変更後のクラスは、学部指定オビ以外のクラスを受講してください。

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91 ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。

2. 教育学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学 教育 科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	10	
		初修外国語	10	次のうち一つの言語で10単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ 科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Aを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（自然系）」又は「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
	現代教養科目（自然系）又は（学際・融合系）			
	超学部セミナー			
人文・社会系基礎科目	8			
小計		41		
学部 科目	専門科目	66	「専門基礎科目」18単位を含む、合計84単位以上を修得すること。	
	関連専門科目			
	専門基礎科目	18		
	小計	84		
合計		125		

(2) 進級要件単位数

教育学部には、「進級制度」はありません。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 言語文化科目については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。

ただし、履修上の制限がありますので、78 ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目 10 単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1 単位	I 期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2 単位	I 期	必修科目	
英語（中級）	2 単位	II 期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2 単位	II 期	必修科目	
英語（上級）	2 単位	III 期	必修科目	
英語（セミナー）	2 単位	IV 期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2 単位	春学期 3 年次 以上	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A 類）	2 単位			
特別英語セミナー（B 類）	2 単位			
特別英語セミナー（C 類）	2 単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：1言語について、必修科目 10 単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
【初修外国語】基礎 1	2 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】基礎 2	2 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2 単位	II 期	必修科目	
【初修外国語】中級 1	2 単位	III 期	必修科目	どちらかを複数履修することによっても卒業要件単位となります。
【初修外国語】中級 2	2 単位	IV 期	必修科目	
【初修外国語】中級	2 単位	—	—	中級 1, 中級 2 として読み替えることができます。
【初修外国語】上級	2 単位	—		

【初修外国語】基礎 1 及び基礎 2 の単位を修得した段階で、異なる【初修外国語】の言語に変更を希望する場合は、変更前と変更後の言語担当教員に相談してください。履修言語の変更が認められた場合は、変更後の言語の【初修外国語】基礎 1, 基礎 2, 初級完成を履修することにより、言語の変更前と変更後に履修した科目全体をもって、初修外国語の卒業要件をすべて満たしたものと認められます。

変更後のクラスは、学部指定オビ以外のクラスを受講してください。

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91 ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。

3. 法学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準		
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	12~14	日本国憲法，法学，政治学は必要単位に含めることができないので注意すること。		
	基礎セミナー				
	データ科学科目 講義				
	人文・社会系基礎科目				
	言語文化科目	英語	10	【一般学生】 英語10単位以上及び初修外国語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語）10単位以上を含む合計20-22単位を修得すること。 【外国人留学生】 日本語10単位以上及び英語又は初修外国語10単位以上を含む合計20-22単位を修得すること。	
		初修外国語	10		
		日本語	10		
	健康・スポーツ科学科目	講義	28		履修の際はデータ科学基礎演習Aを履修すること。 「現代教養科目（自然系）」又は「現代教養科目（学際・融合系）」2単位以上を含む合計6-8単位取得すること。
		実習			
	データ科学科目	演習			
国際理解科目					
現代教養科目（自然系）又は（学際・融合系）		2			
超学部セミナー					
小計		40~42			
学部科目	専門科目	82~84		関連専門科目で必要単位に含めることができるのは合計20単位までである。	
	関連専門科目				
	専門基礎科目				
合計		124			

(2) 進級要件単位数

法学部には、「進級制度」はありません。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 言語文化科目については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。

ただし、履修上の制限がありますので、78 ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目 10 単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
英語（サバイバル）	1 単位	I 期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2 単位	I 期	必修科目	
英語（中級）	2 単位	II 期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2 単位	II 期	必修科目	
英語（上級）	2 単位	III 期	必修科目	
英語（セミナー）	2 単位	IV 期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2 単位	春学期 3 年次 以上	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A 類）	2 単位			
特別英語セミナー（B 類）	2 単位			
特別英語セミナー（C 類）	2 単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：1言語について、必修科目 10 単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
【初修外国語】基礎1	2 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2 単位	II 期	必修科目	
【初修外国語】中級1	2 単位	III 期	必修科目	どちらかを複数履修することによっても卒業要件単位となります。
【初修外国語】中級2	2 単位	IV 期	必修科目	
【初修外国語】中級	2 単位	—	—	中級1, 中級2として読み替えることができます。
【初修外国語】上級	2 単位	—		

【初修外国語】基礎1及び基礎2の単位を修得した段階で、異なる【初修外国語】の言語に変更を希望する場合は、変更前と変更後の言語担当教員に相談してください。履修言語の変更が認められた場合は、変更後の言語の【初修外国語】基礎1, 基礎2, 初級完成を履修することにより、言語の変更前と変更後に履修した科目全体をもって、初修外国語の卒業要件をすべて満たしたものと認められます。

変更後のクラスは、学部指定オビ以外のクラスを受講してください。

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91 ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 外国人留学生

日本語で必修科目 10 単位以上、及び英語又は初修外国語 10 単位以上を含む合計 20 単位以上が必要です。

4. 経済学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	10	【一般学生】 英語10単位以上、及び初修外国語で「多言語修得基礎」と一つの言語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）で9単位、合計19単位を修得すること。 【外国人留学生】 日本語10単位、及び英語又は初修外国語のうち1つの言語（母国語以外の言語）で9単位以上、合計19単位以上を修得すること。
		初修外国語	9	
		日本語	10	
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Aを履修すること。
	国際理解科目	2	4	イ 国際理解科目、現代教養科目（自然系及び学際・融合系）及び超学部セミナーから合計4単位以上修得すること。 ロ 現代教養科目（自然系及び学際・融合系）から2単位以上修得すること。
	現代教養科目（自然系）及び（学際・融合系）			
超学部セミナー				
人文・社会系基礎科目	8			
小計	40			
学部科目	専門科目	32～	56	
	関連専門科目	0～		
	専門基礎科目	28		
	小計	84		
合計	124			

(2) 進級要件単位数

専門科目（必修）の「卒論研究」を履修するためには、卒論研究に入る学年の始めの時点で、全学教育科目の卒業要件単位40単位のうちから28単位以上、専門系科目のうちから演習Ⅰ、演習Ⅱ各2単位を含めて56単位以上、計84単位以上を修得していなければなりません。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 言語文化科目については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。

ただし、履修上の制限がありますので、78 ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目 10 単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
英語（サバイバル）	1 単位	I 期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2 単位	I 期	必修科目	
英語（中級）	2 単位	II 期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2 単位	II 期	必修科目	
英語（上級）	2 単位	III 期	必修科目	
英語（セミナー）	2 単位	IV 期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2 単位	春学期 3 年次 以上	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A 類）	2 単位			
特別英語セミナー（B 類）	2 単位			
特別英語セミナー（C 類）	2 単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目 9 単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
多言語修得基礎	1 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】基礎 1	2 単位	II 期	必修科目	
【初修外国語】基礎 2	2 単位	II 期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2 単位	III 期	必修科目	
【初修外国語】中級	2 単位	IV 期	必修科目	
【初修外国語】中級 1	2 単位	—	—	中級として読み替えることができます。
【初修外国語】中級 2	2 単位	—		
【初修外国語】上級	2 単位	—		

【初修外国語】基礎 1 及び基礎 2 の単位を修得した段階で、異なる【初修外国語】の言語に変更を希望する場合は、変更前と変更後の言語担当教員に相談してください。履修言語の変更が認められた場合は、変更後の言語の【初修外国語】基礎 1, 基礎 2 を履修することにより、言語の変更前と変更後に履修した科目全体をもって、初修外国語の卒業要件及び進級要件をすべて満たしたものと認められます。

変更後のクラスは、学部指定オビ以外のクラスを受講してください。

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91 ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 外国人留学生

日本語で必修科目 10 単位、英語又は初修外国語で必修科目 9 単位が必要です。英語を選択した場合、卒業要件は 9 単位以上ですが、必修科目はすべて 2 単位であるため、実質 10 単位取得する必要があります。

5. 情報学部：自然情報学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学 教育 科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ 科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	0	随意科目としてデータ科学基礎演習Bを履修することができる。
	国際理解科目	4	国際理解科目、現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系） 超学部セミナー	国際理解科目、現代教養科目（人文・社会系及び学際・融合系）及び超学部セミナーから合計4単位以上修得すること。
現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	18	① 微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，計8単位を修得すること。 ② 「物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験」，「化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験」，「生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験」，「地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験」のうちから1組3科目，計6単位を修得すること。 ③ 上記②のうち，修得した組み合わせ以外の同一科目「基礎Ⅰ・Ⅱ」を1組とし，1組2科目，計4単位以上を修得すること。		
小計	41			
学部 科目	専門科目	42～	87 学部科目の詳細は，情報学部学生便覧で確認すること。	
	関連専門科目	2～10		
	専門基礎科目	30～34		
	小計	87		
合計	128			

(2) 進級要件単位数

情報学部には、「進級制度」はありません。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目はすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

6. 情報学部：人間・社会情報学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	10	次のうち一つの言語で10単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	0	随意科目として「データ科学基礎演習A」を履修することができる。
	国際理解科目	4	国際理解科目、現代教養科目（自然系及び学際・融合系）及び超学部セミナーから合計4単位以上修得すること。	
	現代教養科目（自然系）及び（学際・融合系）			
	超学部セミナー			
人文・社会系基礎科目	10			
自然系基礎科目	2	微分積分学Ⅰ又は線形代数学Ⅰを2単位以上修得すること。		
小計	40			
学部科目	専門科目	42～	学部科目の詳細は、情報学部学生便覧で確認すること。	
	関連専門科目	2～10		
	専門基礎科目	30～34		
	小計	88		
合計	128			

(2) 進級要件単位数

情報学部には、「進級制度」はありません。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 言語文化科目については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められる科目もあります。
ただし、履修上の制限がありますので、78 ページ以降に掲載してある〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
- (3) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111 ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目 8 単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1 単位	I 期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2 単位	I 期	必修科目	
英語（中級）	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
英語（上級）	2 単位	Ⅲ期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2 単位	春学期 3 年次 以上	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A 類）	2 単位			
特別英語セミナー（B 類）	2 単位			
特別英語セミナー（C 類）	2 単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：1 言語について、必修科目 10 単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
【初修外国語】基礎 1	2 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】基礎 2	2 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
【初修外国語】中級 1	2 単位	Ⅲ期	必修科目	
【初修外国語】中級 2	2 単位	Ⅳ期	必修科目	
【初修外国語】中級	2 単位	—	—	中級 1, 中級 2 として読み替えることができます。
【初修外国語】上級	2 単位	—		

【初修外国語】基礎 1 及び基礎 2 の単位を修得した段階で、異なる【初修外国語】の言語に変更を希望する場合は、変更前と変更後の言語担当教員に相談してください。履修言語の変更が認められた場合は、変更後の言語の【初修外国語】基礎 1, 基礎 2, 初級完成を履修することにより、言語の変更前と変更後に履修した科目全体をもって、初修外国語の卒業要件をすべて満たしたものと認められます。

変更後のクラスは、学部指定オビ以外のクラスを受講してください。

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91 ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。

7. 情報学部：コンピュータ科学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	0	随意科目としてデータ科学基礎演習Bを履修することができる。
	国際理解科目	4	国際理解科目、現代教養科目（人文・社会系及び学際・融合系）及び超学部セミナーから合計4単位以上修得すること。	
	現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）			
超学部セミナー				
自然系基礎科目	18	① 微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験を含む計14単位を修得すること。 ② 「化学基礎Ⅰ，化学基礎Ⅱ」，「生物学基礎Ⅰ，生物学基礎Ⅱ」及び「地球科学基礎Ⅰ，地球科学基礎Ⅱ」のうちから1組2科目，計4単位を修得すること。		
小計	41			
学部科目	専門科目	42～	87 学部科目の詳細は，情報学部学生便覧で確認すること。	
	関連専門科目	2～10		
	専門基礎科目	30～34		
	小計	87		
合計	128			

(2) 進級要件単位数

情報学部には、「進級制度」はありません。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレースメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目はすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

8. 理学部：数理学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	1	多言語修得基礎を履修すること。
		日本語		※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。その場合、日本語文章表現法を履修すること。
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	14	<ul style="list-style-type: none"> ・微積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論の合計10単位修得すること。 ・以下の科目から4単位以上修得すること。 電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験 		
小計	36			
学部科目	専門科目	80～72		
	関連専門科目	0		
	専門基礎科目	16～24		
	小計	96		
合計		132		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	1年次終了時において、20単位以上修得していること。 ただし、随意科目及び教職科目（「教育の基礎的理解に関する科目」）は20単位には含まれない。	<ul style="list-style-type: none"> ① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 （在学年限(8年) - 2～4年次の年数(3年)） ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、理学部対象以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められません。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期 3年次 以上	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位			
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：必修科目1単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	選択科目	卒業必要単位は多言語修得基礎の1単位ですが、進級要件単位として扱います。
【初修外国語】基礎2	2単位	II期		
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は1単位以上ですが、必修科目が2単位であるため、実質2単位取得する必要があります。

9. 理学部：物理学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	1	多言語修得基礎を履修すること。
		日本語		※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。その場合、日本語文章表現法を履修すること。
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	22	<ul style="list-style-type: none"> ・物理学基礎Ⅰ，電磁気学Ⅰ・Ⅱの合計6単位を修得すること。 ・以下の科目から合計16単位以上を修得すること。 微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験 ただし，微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計6単位以上を修得すること。		
小計	44			
学部科目	専門科目	64～55		
	関連専門科目	0		
	専門基礎科目	19～28		
	小計	83		
合計	127			

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	1年次終了時において，20単位以上修得していること。 ただし，随意科目及び教職科目（「教育の基礎的理解に関する科目」）は20単位には含まれない。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は，通算5年までとする。 （在学年限（8年）－2～4年次の年数（3年）） ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、理学部対象以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められません。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレースメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期 3年次 以上	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位			
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：必修科目1単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	選択科目	卒業必要単位は多言語修得基礎の1単位ですが、進級要件単位として扱います。
【初修外国語】基礎2	2単位	II期		
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は1単位以上ですが、必修科目が2単位であるため、実質2単位取得する必要があります。

10. 理学部：化学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学 教育 科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	1	多言語修得基礎を履修すること。
		日本語		※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。その場合、日本語文章表現法を履修すること。
	健康・スポーツ 科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
	現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）			
超学部セミナー				
自然系基礎科目	20		・微積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論のうちから合計8単位以上を修得すること。 ・以下の科目から12単位以上修得すること。 電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験	
小計	42			
学部 科目	専門科目	50～47		
	関連専門科目	0		
	専門基礎科目	34～37		
	小計	84		
合計		126		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	1年次終了時において、20単位以上修得していること。 ただし、随意科目及び教職科目（「教育の基礎的理解に関する科目」）は20単位には含まれない。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 （在学年限(8年) - 2～4年次の年数(3年)） ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、理学部対象以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められません。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレースメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：必修科目1単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	選択科目	卒業必要単位は多言語修得基礎の1単位ですが、進級要件単位として扱います。
【初修外国語】基礎2	2単位	II期		
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は1単位以上ですが、必修科目が2単位であるため、実質2単位取得する必要があります。

11. 理学部：生命理学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学 教育 科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	1	多言語修得基礎を履修すること。
		日本語		※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。その場合、日本語文章表現法を履修すること。
	健康・スポーツ 科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
	現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）			
超学部セミナー				
自然系基礎科目	16	以下の科目から16単位以上修得すること。 微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験		
小計	38			
学部 科目	専門科目	66～62		
	関連専門科目	0		
	専門基礎科目	20～24		
	小計	86		
合計		124		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	1年次終了時において、20単位以上修得していること。 ただし、随意科目及び教職科目（「教育の基礎的理解に関する科目」）は20単位には含まれない。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 （在学年限(8年) - 2～4年次の年数(3年)） ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、理学部対象以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められません。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレースメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：必修科目1単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	選択科目	卒業必要単位は多言語修得基礎の1単位ですが、進級要件単位として扱います。
【初修外国語】基礎2	2単位	II期		
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は1単位以上ですが、必修科目が2単位であるため、実質2単位取得する必要があります。

12. 理学部：地球惑星科学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	1	多言語修得基礎を履修すること。
		日本語		※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。その場合、日本語文章表現法を履修すること。
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
	現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）			
超学部セミナー				
自然系基礎科目	18	・以下の科目から合計18単位以上修得すること。 微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，物理学実験，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験，地球科学基礎Ⅰ・Ⅱ，地球科学実験		
小計	40			
学部科目	専門科目	68～45		
	関連専門科目	0		
	専門基礎科目	20～43		
	小計	88		
合計		128		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
1年次終了時	1年次終了時において、20単位以上修得していること。 ただし、随意科目及び教職科目（「教育の基礎的理解に関する科目」）は20単位には含まれない。	① 1年次に留める。 ② 1年次の在学年数は、通算5年までとする。 （在学年限(8年) - 2～4年次の年数(3年)） ③ ②の通算5年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、理学部対象以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められません。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレースメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次 以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：必修科目1単位

科目名	単位数	開講期	必修・ 随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	選択科目	卒業必要単位は多言語修得基礎の1単位ですが、進級要件単位として扱います。
【初修外国語】基礎2	2単位	II期		
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は1単位以上ですが、必修科目が2単位であるため、実質2単位取得する必要があります。

13. 医学部：医学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学 教育 科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	4	基礎セミナーA, 基礎セミナーBを履修すること。	
	言語文化科目	英語	6	
		初修外国語	5	※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ 科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	12	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際理解科目」, 「現代教養科目（人文・社会系, 自然系及び学際・融合系）」及び「超学部セミナー」のうちから12単位を修得すること。ただし, 「現代教養科目（自然系）」は2単位を限度とする。 ・Ⅴ期およびⅦ期において, 各期2単位以上の修得を推奨する。 ・Ⅶ期に「超学部セミナー（医学研究ゼミ）」（2単位。3年次基礎医学セミナー終了後, 別途指示する手続きを経て, 引き続き当該講座／研究室で従事した研究活動を単位認定するもの。）を選択できる。 	
現代教養科目（人文・社会系）				
現代教養科目（自然系）				
現代教養科目（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	10	<ul style="list-style-type: none"> ・数学通論Ⅰ・Ⅱ, 物理学基礎Ⅰ・Ⅱ, 化学基礎Ⅰ・Ⅱ [各2単位]のうちから6単位, うち化学基礎Ⅰ・Ⅱのいずれかは必修 ・生物学基礎Ⅰ [2単位] ・物理学実験及び化学実験 [各2単位]のうちから2単位以上を含む計10単位以上を必要とする。 		
小計		44		
学部 科目	専門科目	166		
	関連専門科目	0		
	専門基礎科目	0		
	小計	166		
合計		210		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等（編入学者を除く）
2年次終了時	2年次終了時において, 『全学教育科目』30単位以上を修得し, 『専門科目』の2年次までに開講される所定の全科目について履修認定を受けていること。	<ol style="list-style-type: none"> ① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は, 通算8年までとする。 (在学年限(12年) - 3~6年次の年数(4年)) ③ ②の通算8年に達しても進級できない者については除籍する。
3年次終了時	3年次終了時において, 『専門科目』の3年次までに開講されている所定の科目を全て修得していること。ただし, 所定の科目のうち1科目が不足している者に限っては, 進級を認めるものとするが, この場合, 全ての科目において履修認定を受けていることを必要とする。	<ol style="list-style-type: none"> ① 3年次に留める。 ② 3年次までの在学年数は, 通算9年までとする。 (在学年限(12年) - 4~6年次の年数(3年)) ③ ②の通算9年に達しても進級できない者については除籍する。
4年次終了時	4年次終了時において, 共用試験(CBT及び臨床実習前OSCE)に合格し, 4年次までに開講されている全ての『専門科目』について履修認定を受けて, さらにその科目のうち, PBLチュートリアル及び臨床医学総論の単位を修得していること。 なお, 1科目が不足した状態で4年次へ進級した者は, 上記条件に加え, 不足していた1科目の単位を修得していることが望ましい。	<ol style="list-style-type: none"> ① 4年次に留める。 ② 4年次までの在学年数は, 通算10年までとする。 (在学年限(12年) - 5~6年次の年数(2年)) ③ ②の通算10年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定, 緩和条件等は, 各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111 ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

特に「数学通論Ⅰ・Ⅱ」と「生物学基礎Ⅰ」は、開講対象学部が医学部医学科向けの科目のみ卒業要件単位として認められます。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目 6 単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（基礎）	2 単位	I 期	随意科目	プレースメント・テストにおいて B コースとなった学生は履修を強く推奨します。卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（中級）	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
英語（上級）	2 単位	Ⅲ期	必修科目	
英語（セミナー）	2 単位	Ⅳ期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（資格試験英語）	2 単位	春学期		
特別英語セミナー（A 類）	2 単位	3 年次以上		
特別英語セミナー（B 類）	2 単位			
特別英語セミナー（C 類）	2 単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目 5 単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1 単位	I 期	必修科目	
【初修外国語】基礎 1	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
【初修外国語】基礎 2	2 単位	Ⅱ期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2 単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2 単位	—		
【初修外国語】中級 1	2 単位	—		
【初修外国語】上級	2 単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91 ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目がすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

14. 医学部：保健学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準				
全学 教育 科目	「大学での学び」基礎論	1					
	基礎セミナー	2					
	言語文化科目	英語	8				
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語			
		日本語					
	健康・スポーツ科学科目	講義	2				
		実習	2				
	データ科学科目	講義	1				
		演習	1	データ科学基礎演習A又はデータ科学基礎演習Bを履修すること。			
	国際理解科目		4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。			
	現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）	2					
超学部セミナー							
自然系基礎科目		10	数学通論Ⅰ・Ⅱ，物理学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学基礎Ⅰ・Ⅱ，生物学実験のうちから10単位以上修得すること。				
小計		36					
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	
学部 科目	専門科目	68	65	76～78	69	71	
	関連専門科目	0	0	0	0	0	
	専門基礎科目	23	33	21～23	19	22	
	小計	91	98	99	88	93	
合計		127	134	135	124	129	

(2) 進級要件単位数

医学部保健学科には、「進級制度」はありません。
ただし、3年次秋学期以降または4年次春学期以降の臨床（臨地）実習等を履修するためには、各専攻が定める履修条件を満たしていなければなりません。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目がすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

15. 工学部：化学生命工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」（6単位）を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	22	数 学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論から合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ，物理学実験の合計8単位を修得すること。 化 学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計6単位を修得すること。		
小 計		46		
学部科目	専 門 科 目	38		
	関 連 専 門 科 目	3		
	専 門 基 礎 科 目	46		
	小 計	87		
合 計		133		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	① 「言語文化科目」として英語及び初修外国語（多言語修得基礎及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語のうちから1外国語（外国人留学生は日本語でもよい）から11単位以上を修得していること。 ② 自然系基礎科目は，上記の卒業に必要な科目のうちから物理学実験2単位を含む18単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め，全学教育科目で40単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は，通算6年までとする。（在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)） ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレースメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目がすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

16. 工学部：物理工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」（6単位）を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	24	数 学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論から合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計10単位を修得すること。 化 学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計6単位を修得すること。		
小 計	48			
学部科目	専 門 科 目	49		
	関 連 専 門 科 目	4		
	専 門 基 礎 科 目	31		
	小 計	84		
合 計		132		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	① 「言語文化科目」として英語及び初修外国語（多言語修得基礎及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語のうちから1外国語（外国人留学生は日本語でもよい）から11単位以上を修得していること。 ② 自然系基礎科目は，上記の卒業に必要な科目のうちから物理学実験2単位を含む18単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め，全学教育科目で40単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は，通算6年までとする。（在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目がすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

17.工学部：マテリアル工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」（6単位）を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
	現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）			
超学部セミナー				
自然系基礎科目	24	数 学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論から合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計10単位を修得すること。 化 学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計6単位を修得すること。		
小 計	48			
学部科目	専 門 科 目	41		
	関 連 専 門 科 目	1		
	専 門 基 礎 科 目	45		
	小 計	87		
合 計		135		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	① 「言語文化科目」として英語及び初修外国語（多言語修得基礎及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語のうちから1外国語（外国人留学生は日本語でもよい））から11単位以上を修得していること。 ② 自然系基礎科目は，上記の卒業に必要な科目のうちから物理学実験2単位を含む18単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め，全学教育科目で40単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は，通算6年までとする。（在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目がすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

18.工学部：電気電子情報工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」（6単位）を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
	現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）			
超学部セミナー				
自然系基礎科目	24	数学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論から合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計10単位を修得すること。 化学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計6単位を修得すること。		
小計	48			
学部科目	専門科目	45		
	関連専門科目	4		
	専門基礎科目	38		
	小計	87		
合計		135		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	① 「言語文化科目」として英語及び初修外国語（多言語修得基礎及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語のうちから1外国語（外国人留学生は日本語でもよい）から11単位以上を修得していること。 ② 自然系基礎科目は，上記の卒業に必要な科目のうちから物理学実験2単位を含む18単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め，全学教育科目で40単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は，通算6年までとする。（在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目がすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

(2024年度入学生用)

2023年度入学者は「2023 STUDENTS' GUIDE 全学教育科目履修の手引」を参照すること。

19. 工学部：機械・航空宇宙工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」（6単位）を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	24	数 学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論の合計10単位を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計10単位を修得すること。 化 学：化学基礎Ⅰ・Ⅱの合計4単位を修得すること。		
小 計		48		
学部科目	専 門 科 目	37		
	関 連 専 門 科 目	3		
	専 門 基 礎 科 目	49.5		
	小 計	89.5		
合 計		137.5		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	① 「言語文化科目」として英語及び初修外国語（多言語修得基礎及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語のうちから1外国語（外国人留学生は日本語でもよい））から11単位以上を修得していること。 ② 自然系基礎科目は，上記の卒業に必要な科目のうちから物理学実験2単位を含む18単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め，全学教育科目で40単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は，通算6年までとする。（在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目がすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

20.工学部：エネルギー理工学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」（6単位）を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	24	数 学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論から合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，物理学実験の合計10単位を修得すること。 化 学：化学基礎Ⅰ・Ⅱ，化学実験の合計6単位を修得すること。		
小 計	48			
学部科目	専 門 科 目	34		
	関 連 専 門 科 目	4		
	専 門 基 礎 科 目	47		
	小 計	85		
合 計		133		

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	① 「言語文化科目」として英語及び初修外国語（多言語修得基礎及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語のうちから1外国語（外国人留学生は日本語でもよい）から11単位以上を修得していること。 ② 自然系基礎科目は，上記の卒業に必要な科目のうちから物理学実験2単位を含む18単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め，全学教育科目で40単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は，通算6年までとする。（在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレースメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目がすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

21.工学部：環境土木・建築学科の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	
		初修外国語	5	多言語修得基礎と次のうち一つの言語で合計5単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 ※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」（6単位）を修得してもよい。
		日本語		
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習		
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	2	4	「現代教養科目（人文・社会系）」及び「現代教養科目（学際・融合系）」2単位を含む4単位を修得すること。
現代教養科目（人文・社会系）及び（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	20	数 学：微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，複素関数論から合計8単位以上を修得すること。 物理学：力学Ⅰ・Ⅱ，電磁気学Ⅰ，物理学実験の合計8単位を修得すること。 化 学：化学基礎Ⅰ・Ⅱの合計4単位を修得すること。		
小計	44			
		環境土木工学プログラム	建築学プログラム	
学部科目	専門科目	46	47	
	関連専門科目	5	8	
	専門基礎科目	37	33	
	小計	88	88	
合計		132	132	

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	① 「言語文化科目」として英語及び初修外国語（多言語修得基礎及びドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語のうちから1外国語（外国人留学生は日本語でもよい））から11単位以上を修得していること。 ② 自然系基礎科目は，上記の卒業に必要な科目のうちから物理学実験2単位を含む18単位以上を修得していること。 ③ ①及び②を含め，全学教育科目で40単位以上修得していること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は，通算6年までとする。（在学年限（8年）－3～4年次の年数（2年）） ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定，緩和条件等は，各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：多言語修得基礎及び1言語について、必修科目5単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
多言語修得基礎	1単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎1	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級	2単位	—		
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。その場合、「日本語」としての卒業要件は5単位以上ですが、必修科目がすべて2単位であるため、実質6単位取得する必要があります。

22. 農学部の授業科目区分ごとの履修基準（卒業要件単位）一覧

(1) 卒業要件単位数

科目区分		必要単位数	履修基準	
全学教育科目	「大学での学び」基礎論	1		
	基礎セミナー	2		
	言語文化科目	英語	8	詳細は次ページを参照のこと。
		初修外国語	6	次のうち一つの言語で合計6単位を修得すること。 ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語 詳細は次ページを参照のこと。
		日本語		※外国人留学生は「初修外国語」の代わりに「日本語」を修得してもよい。
	健康・スポーツ科学科目	講義	2	
		実習	2	
	データ科学科目	講義	1	
		演習	1	データ科学基礎演習Bを履修すること。
	国際理解科目	4	6	「現代教養科目（人文・社会系）」4単位を含む6単位を修得すること。
	現代教養科目（人文・社会系）			
現代教養科目（学際・融合系）				
超学部セミナー				
自然系基礎科目	20	生物学基礎Ⅰ・Ⅱ、化学基礎Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎Ⅰ、微分積分学Ⅰ、線形代数学Ⅰを修得し、生物学実験、化学実験、物理学実験の中から2科目以上修得し、合計20単位以上を修得すること。		
小計	49			
学部科目	専門基礎科目	40	生物環境科学科および資源生物科学科「専門基礎科目」のうち、必修科目40単位を修得すること。 応用生命科学科「専門基礎科目」のうち、必修科目36単位、選択必修科目4単位以上を修得すること。	
	専門科目	45	「専門科目」のうち、必修科目22単位（生物環境科学科、応用生命科学科）または24単位（資源生物科学科）+選択必修科目23単位以上（生物環境科学科、応用生命科学科）または21単位以上（資源生物科学科）を修得すること。 なお、詳細は農学部学生便覧で必ず確認すること。	
	小計	85		
合計	134			

【備考】農学部特別講義の単位認定は、上限6単位とする。

(2) 進級要件単位数

進級判定年次	科目区分及び必要単位数	進級できない者の取扱い等
2年次終了時	2年次終了時において、68単位以上修得していること。 ただし、68単位の中に全学教育科目を42単位以上含んでいること。	① 2年次に留める。 ② 2年次までの在学年数は、通算6年までとする。 （在学年限(8年) - 3~4年次の年数(2年)） ただし、休学期間は通算期間に含めない。 ③ ②の通算6年に達しても進級できない者については除籍する。
3年次終了時	3年次終了時において、108単位以上修得していること。 ただし、108単位（注）の中に言語文化科目14単位、専門基礎科目（生命農学序説、生物化学Ⅰ、無機化学、有機化学Ⅰを含む）24単位以上および実験実習（基盤実験実習を含む）8単位を含んでいること。	① 3年次に留める。 ② 3年次までの在学年数は、通算7年までとする。 （在学年限(8年) - 4年次の年数(1年)） ただし、休学期間は通算期間に含めない。 ③ ②の通算7年に達しても進級できない者については除籍する。

（注）ここでいう108単位は、進級判定年次における修得単位数のうち、卒業要件単位数の科目区分ごとの必要単位数を上限として集計する。超えた分については、108単位に計上されない。

(3) 履修単位の上限

履修登録単位数の上限設定、緩和条件等は、各学部の学生便覧等で確認してください。

〔重複履修等〕

- (1) 原則として、同一科目を2個以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1個しか認められません。
- (2) 自然系基礎科目については、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、111ページ以降に掲載してある〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

〔言語文化科目の履修基準〕

(1) 英語

卒業要件：必修科目8単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
英語（サバイバル）	1単位	I期	随意科目	プレイスメント・テストにおいてCコースとなった学生が受講します。 この授業に「合格」しないと2年次の「英語」授業を受講できません。 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
英語（基礎）	2単位	I期	必修科目	
英語（中級）	2単位	II期	必修科目	
英語（コミュニケーション）	2単位	II期	必修科目	
英語（上級）	2単位	III期	必修科目	
英語（セミナー）	2単位	IV期	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
特別英語セミナー（資格試験英語）	2単位	春学期		
特別英語セミナー（A類）	2単位	3年次以上		
特別英語セミナー（B類）	2単位			
特別英語セミナー（C類）	2単位			

(2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

（初修外国語の1言語については、以下【初修外国語】と表記する。）

卒業要件：1言語について、必修科目6単位

科目名	単位数	開講期	必修・随意等	備考
【初修外国語】基礎1	2単位	I期	必修科目	
【初修外国語】基礎2	2単位	I期	必修科目	
【初修外国語】初級完成	2単位	II期	必修科目	
【初修外国語】中級	2単位	—	随意科目	卒業要件及び進級要件単位としては認められません。
【初修外国語】中級1	2単位	—		
【初修外国語】中級2	2単位	—		
【初修外国語】上級	2単位	—		

(3) 英語及び初修外国語の検定試験による単位認定制度

指定された検定試験で所定の認定又は点数を得た場合に、「英語」又は「初修外国語」の単位として認定する制度です。概要及び単位認定制度申請方法等については、91ページ「検定試験による単位認定制度」を参照してください。

(4) 日本語（外国人留学生のみ）

外国人留学生は、「初修外国語」の代わりに「日本語」を履修することができます。